

2025 年 10 月 23 日

Press Release

開館 5 周年記念

杉戸洋展：えりとへり / flyleaf and liner

5th Anniversary Exhibition

SUGITO Hiroshi: flyleaf and liner

会期：2025 年 12 月 5 日（金）－2026 年 5 月 17 日（日）

会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

コラボレーター：服部一成（グラフィックデザイナー）



弘前れんが倉庫美術館
HIROSAKI
MUSEUM OF CONTEMPORARY
ART

弘前れんが倉庫美術館では、2025 年 12 月 5 日（金）から 2026 年 5 月 17 日（日）まで、開館 5 周年記念「杉戸洋展：えりとへり / flyleaf and liner」を開催します。

現代の日本を代表する画家の一人である杉戸洋（1970 年生まれ）は、1990 年代から国内外での作品発表を続けてきました。作品に登場するのは、小さな家や船、果物、木々や雨粒といった、私たちの生きる世界の中の身近なものや自然です。こうしたモチーフが、線や幾何学的な図形とともに繊細かつリズムミカルに構成され、みずみずしい色彩で描き出されます。

本展で、杉戸は「余白」に目をむけます。たとえば、絵画の裏側で、カンヴァスを囲む「えり」や「へり」として貼られた紙や木片のように、すぐには気が付かない場所にあるものです。こうした「余白」は、本の表紙をめくると現れる「あそび紙（flyleaf）」や、洋服の「裏地（liner）」など、あらゆる場所に潜んでいます。杉戸はそれらの前で立ち止まり、心を傾けることから制作をはじめます。本展では、1990 年代から最新作までの絵画を中心に、杉戸の作品を紹介します。

また、本展のコラボレーターとして、グラフィック・デザイナーの服部一成を迎えます。杉戸の作品に触発されて、服部がデザインした壁紙が貼りめぐらされた空間の内外に、杉戸の絵画と服部の写真が展示されることで、より強く「えりとへり / flyleaf and liner」のコンセプトが際立つ空間が立ち現れます。



本展チラシ（デザイン：服部一成）

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

展覧会のみどころ

1. 服部一成とのコラボレーション

本展のコラボレーターである服部一成は、弘前れんが倉庫美術館のロゴマークなどのVI（ビジュアルアイデンティティ）のデザインをはじめ、雑誌や広告、ミュージシャンのアートワークなど、幅広く活躍するグラフィックデザイナーです。服部の仕事の中でも、杉戸が強く印象に残っていると語るのが、ファッション雑誌『流行通信』のアートディレクション（2002-04年）です。多様なクリエイターが関わることで作られていた同誌は、ファッションという垣根を超えた創造的刺激にあふれており、とりわけ服部自身の撮影した写真やコラージュからなる大胆かつ自由な誌面構成に、杉戸は「制作する上でのヒントがあった」と語ります。

また服部が『流行通信』に携わった2000年代前半は、当館が美術館になる前の煉瓦倉庫（「吉井酒造煉瓦倉庫」）で、奈良美智の3度の展覧会*が開催された時期でもありました。杉戸は2006年の「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」に参加するため、この時期、度々弘前に足を運んでおり、杉戸にとって、弘前の記憶は服部による『流行通信』の時代と重なり合っているのです。

杉戸からの呼びかけで実現する二人のコラボレーションは、弘前れんが倉庫美術館の空間や土地の記憶にも共鳴するものになるでしょう。

*2002年「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」、2005年「From the Depth of My Drawer」、2006年「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」。市民を中心にしたボランティアが会場作りから会期中の運営までを担い、県内外から延べ15万人以上が訪れた。三度の展覧会の成功をひとつの大きなきっかけとして、弘前れんが倉庫美術館が誕生した。



杉戸洋《color tree 2》1994/2024年 作家蔵
©Hiroshi Sugito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery Photo by Kenji Takahashi

2. 奈良美智との共作を紹介

弘前れんが倉庫美術館では、開館以来コミッション・ワークを中心に収蔵してきた作品を、コレクション展として、今後紹介します。杉戸洋展と同時開催する本展では、「北へ向かって」と題して、当地ゆかりの作家たちの作品に加えて、弘前出身の奈良美智と、杉戸洋が2004年に共作した作品を特別出品します。

杉戸は、美大を目指して美術予備校に通っていた高校時代、当時、愛知県立芸術大学に通いながら講師をしていた奈良と出会います。その後も親交を深め、2004年にオーストリア・ウィーンでの滞在制作中にコラボレーションをおこないました。また2006年には、杉戸が奈良からの誘いで「A to Z」展に参加し、絵画を発表しました。

杉戸と奈良の共同制作の基盤には、長年の信頼関係があります。形や線、色の扱い方の違いが互いの刺激となり、ドローイングや絵画、彫刻作品が生み出されてきました。近年、杉戸は、1990年代の自身の作品に加筆し、過去の自分と対話するような創作を続けています。二人の共作もまた、あらかじめ完成形を定めず、時には長い未完成の期間を経て加筆されます。こうした創作のあり方は、未完の作品が持つ、時を超えて変化する豊かさの可能性を示すようでもあります。本展では杉戸と奈良が2004年に共作した絵画に加えて、当時のモチーフを2022年に彫刻として発表した際の原型を紹介します。

3. 煉瓦造りの建築と呼応する、杉戸洋の最新作を紹介

杉戸は身の回りの様々な事物の形や質感に注目し、作品として再構成します。額縁や台座、作品が設置される空間の床や壁など、作品を成り立たせる多様な要素への関心から、作品を展開します。

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正期に、酒造工場として建てられました。改修を担当した建築家・田根剛が掲げた「記憶の継承」というコンセプトのもと、かつての倉庫の面影を最大限に残して美術館へと生まれ変わりました。杉戸は、この煉瓦倉庫の空気や質感を感じ取り、本展の展示構成を検討しました。鑑賞者の意識は、杉戸の作品と向き合ううち、作品が置かれた空間全体へと広がり、新たな発見や想像力がもたらされることでしょう。

本展では、封筒の切れ端や段ボール、陶など身近な素材を自在に組み合わせた小作品や、1990年代に制作した未発表の絵画に再び手を加えた作品群が並び、杉戸の創作の最新の姿を体感できる機会となります。



杉戸洋《untitled》2017年 作家蔵
©Hiroshi Sugito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
Photo by Kenji Takahashi



杉戸洋《untitled》2022年 作家蔵
©Hiroshi Sugito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
Photo by Hiroshi Sugito

作家略歴

杉戸洋（すぎと ひろし）

1970 年愛知県生まれ。1992 年愛知県立芸術大学美術学部日本画科卒業。

1990 年代の活動初期から国内外で数多くの展覧会に参加。主な個展として、「FOCUS」（フォートワース現代美術館、アメリカ、2006 年）、「天上の地下 prime and foundation」（宮城県美術館、宮城、2015 年）、「frame and refrain」（ベルナール・ビュフェ美術館、静岡、2015 年）、「こっぱとあまつぶ」（豊田市美術館、愛知、2016 年）、「杉戸洋 とんぼ と のりしろ」（東京都美術館、東京、2017 年）の他、海外でも多数の個展を開催。「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」（吉井酒造煉瓦倉庫、弘前、2006 年）に参加。

平成 29 年度（第 68 回）芸術選奨、文部科学大臣賞受賞。

本展コラボレーター：

服部一成（はっとり かずなり）

1964 年生まれ。ライトパブリシティを経てフリーランス。主な仕事に「キューピーハーフ」の広告、雑誌『流行通信』『here and there』『真夜中』のアートディレクション、弘前れんが倉庫美術館、三菱一号館美術館、新潟市美術館の VI 計画、ロックバンド「くるり」のアートワークなどがある。毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、ADC 賞、東京 TDC グランプリなどを受賞。

作家の言葉

本展開催にあたり作家にインタビューを行いました。その一部を紹介します。

えりとへり

縁（へり）というのは絵の境界の部分で、外の風景を見ている、そういう縁にあたるようなところに面白さがたくさんあるのに、夢中で絵を描いているとつい忘れてしまう。

そういう時、襟（えり）とか、はみ出している縁（へり）の部分を大事にすると、制作が復活してくる。

だったら「えりとへり」だけあれば良いかというところでもない。

そのバランスをなんとかしたいと考えつづけている。

雑誌の時代

奈良さんの展覧会があって、弘前に来ていた頃、当時なによりも楽しみだったのは雑誌を見ることだった。本屋へ行って、『流行通信』とか『STUDIO VOICE』とかを開くと、毎月いろんな情報が入ってくる、あのワクワク感。

なんでもないものでもシンプルにカッコよく見える、魔法のようなページをつくっていた服部さんのアート・ディレクションは、制作する上でのヒントがあって、いつもワクワクさせてくれた。

今はネットでなんでも見られるけれど、本の中にはそれとはまた違う情報と熱い気持ちが詰まっていた。

本展関連プログラム

開幕セレモニー

日時 | 2025 年 12 月 5 日 (金) 15 : 15 -

会場 | 展示室内

料金 | 無料 (要観覧券)

申込み | 不要

オープニングトーク

日時 | 2025 年 12 月 6 日 (土) 14 : 00 - 15 : 30

会場 | 展示室内

出演 | 杉戸洋、服部一成

料金 | 無料 (要観覧券)

申込み | 予約優先 WEB (Peatix) <https://251206talk.peatix.com> または 電話 0172-32-8950

学芸スタッフによる解説ツアー

日時 | 2025 年 12 月 13 日 (土)、2026 年 1 月 10 日 (土)、2 月 14 日 (土)、3 月 14 日 (土)、
4 月 11 日 (土)、4 月 25 日 (土)、5 月 9 日 (土) 各日 14 : 00 - 14 : 30

料金 | 無料 (要観覧券)

申込み | 不要

集合場所 | 1 階 受付前

【H-MOCA メンバーズ限定】ナイトツアー：テクニカル・ディレクターと見る展覧会の裏側

展覧会の会場作りを担うスタッフがガイドになって、閉館後の展示室を巡ります。

日時 | 2026 年 1 月 17 日 (土) 17 : 30 - 18 : 45

会場 | 展示室内

料金 | 無料

対象 | H-MOCA メンバーズ

申込み | 予約優先 WEB (Peatix) <https://260117tour.peatix.com> または 電話 0172-32-8950

杉戸洋×奈良美智 ラジオ型トークイベント

美術館の中に、この日一夜限りの“ラジオ局”が開局します。杉戸洋と長年親交がある奈良美智が出演。作品が並ぶ展示室に、二人のトークと音楽が流れます。

日時 | 2026 年 2 月 21 日 (土) 18 : 00 -

会場 | 展示室内

出演 (声のみ) | 杉戸洋、奈良美智

料金 | 1,000 円 (別途、要観覧券)

申込み | 予約優先

※詳細は後日ウェブサイトで発表

H-MOCA レクチャー特別編「抽象ってなんだろう？形と色があらわす意味」

日時 | 2026 年 3 月 4 日 (水) 18:00 - 19:00

会場 | スタジオ B

講師 | 木村絵理子 (当館館長)

料金 | 1,000 円 ※H-MOCA メンバーズは無料

定員 | 30 名

申込み | 予約優先

※詳細は後日ウェブサイトで発表

杉戸洋によるワークショップ「紙で服をつくろう」

日時 | 2026 年 3 月 28 日 (土) 13:30 -

会場 | スタジオ B

料金 | 1,000 円

※詳細は後日ウェブサイトで発表

映画上映会

[A] 『ココ・シャネル 時代と闘った女』

監督: ジャン・ロリターノ / 2019 年製作 / 55 分 / フランス

日時 | 2025 年 12 月 14 日 (日) ①10:30 - ②14:00 -

料金 | 一般 1,000 円、大学生・専門学校生 500 円、高校生以下無料

H-MOCA メンバーズ 800 円

[B] 『モンパルナスの灯』

監督: ジャック・ベッケル / 1958 年製作 / 108 分 / フランス

日時 | 2026 年 1 月 25 日 (日) ①10:30 - ②14:00 -

料金 | 一般 1,300 円、大学生・専門学校生 500 円、高校生以下無料

H-MOCA メンバーズ 1,000 円

[A][B] 共通

会場 | スタジオ B

定員 | 各回 30 名

申込み | 予約優先 WEB (Peatix) <https://coco-mon-film.peatix.com> または 電話 0172-32-8950

展覧会カタログ

本展の公式カタログは、2026年春に出版レーベルのHeHe（ヒヒ）より発行予定です。

同時開催

コレクション展 2025-2026 北へ向かって

2020年に開館した弘前れんが倉庫美術館では、「記憶を宿した空間と共振する」「世界への入り口になる」「地域から生まれる」をキーワードに、この土地ならではのコレクション形成をめざしてきました。本展は、煉瓦造りの建物や地域に合わせて制作されたコミッション・ワークをはじめとした、国内外のアーティストによる 収蔵作品を紹介するコレクション展です。今回は、2025年度の新収蔵作品を中心に、奈良美智や雨宮庸介らの作品を展示します。



潘逸舟《My Star》2005 年

出品作家：雨宮庸介、潘逸舟、奈良美智、蜷川実花、大巻伸嗣、ジャン＝ミシェル・オトニエル、ナウイン・ラワンチャイクン、斎藤麗、佐藤朋子、和田礼治郎 ほか

会期 | 2025 年 12 月 5 日（金）－2026 年 5 月 17 日（日）

会場 | 弘前れんが倉庫美術館

展覧会ウェブサイト | <https://www.hirosaki-moca.jp/exhibitions/collection-2025-2026>

※杉戸洋展の観覧券で本展をご覧ください

コレクション展関連プログラム

蜷川実花《Embracing Lights》特別上映会

日時 | 2026 年 4 月 20 日（月）－4 月 26 日（日）

各日 10：00－17：00 ※ループ上映（時間：6 分 46 秒）

会場 | スタジオ B 料金 | 無料 申込み | 不要



蜷川実花《Embracing Lights》2023 年
©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

その他のプログラム

「れんが倉庫部」による建築ガイドツアー

当館のボランティアプログラム「れんが倉庫部」の部員がガイド役となり、館内を巡りながら建物の歴史や見どころを解説します。

日時 | 2025 年 12 月 20 日（土）、2026 年 1 月 17 日（土）、2 月 21 日（土）、3 月 21 日（土）、4 月 18 日（土）、5 月 16 日（土） 各日 11：00－11：30

料金 | 無料 申込み | 不要 集合場所 | 1 階 エントランス

美術館のお正月 2026

新年は 1 月 2 日から開館します。2 日間限定の新春イベントを開催します。

日程 | 2026 年 1 月 2 日（金）、1 月 3 日（土）

美術館ガイドアプリ「ブルームバーク・コネクト」

世界の文化施設を紹介する無料のデジタルガイド「Bloomberg Connects（ブルームバーク・コネクト）」で、弘前れんが倉庫美術館のコレクション解説や建物の歴史紹介などをお楽しみいただけます。

下記URLよりアプリをダウンロードすることでご利用いただけます。

<https://www.bloombergconnects.org/>

開催概要

- 展覧会名〔和〕：開館 5 周年記念 杉戸洋展：えりとへり / flyleaf and liner
展覧会名〔英〕：5th Anniversary Exhibition SUGITO Hiroshi: flyleaf and liner
会期：2025 年 12 月 5 日（金）－ 2026 年 5 月 17 日（日）
会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市吉野町 2-1）
開館時間：9：30－17：00（2 月 28 日まで）
9：00－17：00（3 月 1 日以降）
入館は閉館の 30 分前まで
休館日：火曜日（ただし 4 月 14 日（火）・21 日（火）・28 日（火）、5 月 5 日（火・祝）は開館）、
12 月 26 日（金）－ 1 月 1 日（木）、5 月 7 日（木）
観覧料〔税込〕：一般 1,500 円（1,400 円） 大学生・専門学校生 1,000 円（900 円）
高校生以下 無料
※（ ）内は 20 名様以上の団体料金
※弘前市民は当日料金から 500 円引き（他の割引との併用不可）
※その他以下の方は無料
弘前市内の留学生の方／満 65 歳以上の弘前市民の方／ひろさき多子家族応援パスポートをご持参
の方／障がいのある方と付添の方 1 名
主催：弘前れんが倉庫美術館
コラボレーター：服部一成
特別協賛：つみえ基金、スターツコーポレーション株式会社
協賛：株式会社大林組、株式会社 NTT ファシリティーズ
協力：小山登美夫ギャラリー
後援：東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、
青森朝日放送、エフエム青森、FM アップルウェーブ、弘前市教育委員会
一般問合せ：TEL 0172-32-8950
アクセス：JR 弘前駅より
- 弘南バス・土手町循環バス「中土手町」下車 徒歩 約 4 分
- 徒歩 約 20 分
- タクシー 約 7 分
当館には駐車場はございません
公共交通機関をご利用いただくか、近隣の有料駐車場をご利用ください
本展ウェブサイト：<https://www.hirosaki-moca.jp/exhibitions/sugito-hiroshi/>
SNS：Instagram/Threads @hirosaki_moca | X @hirosaki_moca
Facebook @hirosaki.moca

美術館について

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正期に酒造工場として建設され、戦後はシードル工場として使われた煉瓦造の建物です。建築家の田根剛が改修を手がけ、2020年に現代美術館として開館しました。弘前をはじめとする東北地域の歴史や文化を継承しつつ、この土地や建物に呼応するような、国内外の先進的なアーティストたちによる作品を紹介しています。

ウェブサイト：<https://www.hirosaki-moca.jp/>



弘前れんが倉庫美術館 外観 ©Naoya Hatakeyama

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

2025 年 10 月 23 日

弘前れんが倉庫美術館 E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp / FAX: 0172-55-5982 宛

弘前れんが倉庫美術館

開館 5 周年記念「杉戸洋展：えりとへり / flyleaf and liner」

広報画像申請書

会期：2025 年 12 月 5 日（金）－ 2026 年 5 月 17 日（日） 会場：弘前れんが倉庫美術館

▼貴媒体についてお知らせください

媒体名	貴社名	
ご担当者名	所属部署	
ご住所 〒		
TEL	FAX	E-MAIL
掲載・放映予定日 月 日 ☐ 読者プレゼント（招待券）を希望する 組 名様（2026年3月末迄掲載対象）		

* 画像 1 点以上ご掲載の場合、本展の招待券 10 枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼ご希望画像の番号に○印をつけてください。ご使用の際は所定のキャプション・クレジットの記載をお願いします。

広報画像 キャプション・クレジット

- 1 杉戸洋《untitled》2025 年 作家蔵 ©Hiroshi Sugito Photo by Hiroshi Sugito
- 2 杉戸洋《color tree 2》1994/2024 年 作家蔵 ©Hiroshi Sugito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
Photo by Kenji Takahashi
- 3 杉戸洋《untitled》2017 年 作家蔵 ©Hiroshi Sugito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery Photo by Kenji Takahashi
- 4 杉戸洋《untitled》2022 年 作家蔵 ©Hiroshi Sugito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery Photo by Hiroshi Sugito
- 5 ※本展メインビジュアルを掲載いただく場合は、キャプション・クレジットは不要です
- 6 ©Naoya Hatakeyama

1



2



3



4



5



6



▼広報画像の掲載について

- ・ 広報画像の使用は展覧会をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- ・ 広報画像をご掲載いただく場合、所定のキャプション・クレジットを必ず記載してください。
- ・ 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせはご遠慮ください。
- ・ 掲載記事、番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報担当までメールまたは FAX でお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1